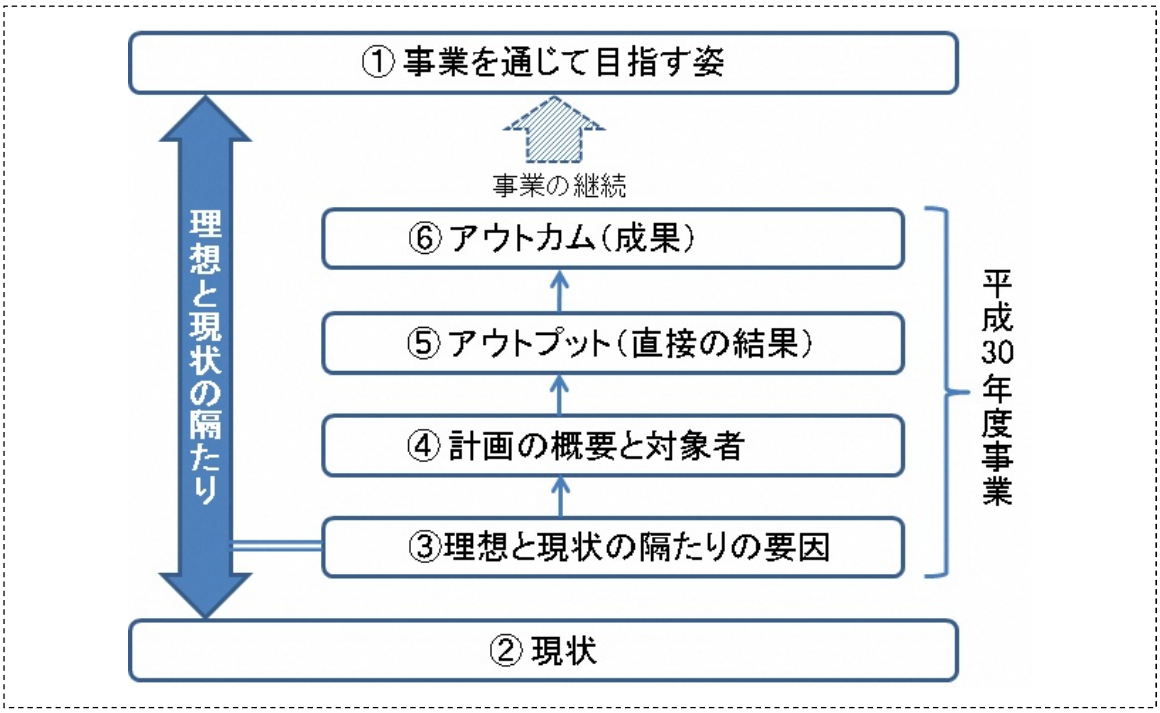
様式第２号

事業計画書

事業名	コミュニティ駄菓子屋事業
団体名	倉敷東学区社会福祉協議会

◆ 記入する項目の関係図

次の図は，この事業計画書の各項目の関係を示したものです。以下，この図を意識しながら，各項目に記入する内容を検討してください。



1　目指す姿

事業を通じて目指す姿や，事業を実施する目的はどのようなものですか。「地域や社会，人のどんな問題を解決し，どのような状態にしたいのか」を具体的に記入してください。

高齢者が生きがいを感じ役割を持てる居場所を提供することで、高齢者の孤立を解消し、また、地域で孤立している若いママも含め地域住民の幅広い世代同士が気にかけ合う関係を育んでいく。 また、本事業の過程で、地域活動の担い手となりえる人材の発掘・育成を目指すなど地域の活性化に繋げたい。さらに、ゆくゆくはこの事業がモデルとなり他地域にも同様の取り組み（高齢者の居場所つくり等）が広がっていく。

様式第２号

2　現状

上記１の目指す姿と比べて，現在はどのような状況にありますか。

・高齢化が進む東学区のなかでも、特にマンションの多い幸町においては地域住民同士の交流が希薄になっており、孤立する高齢者や、いざという時のサポートに不安を持つ人も出てきている。
・学区内に高齢者の居場所としてのサロンは５箇所あるが参加者も固定化されつつあり、またある意味受動的な参加になりがちである。そこで、より積極的な生きがいつくり・居場所つくりを目指して、東町で開催している駄菓子屋事業を平成 29 年度に幸町にも拡大した。現在４回開催したが、まだまだ負担感を持ちながら参加する高齢者がほとんどであり、広がりが不十分である。
・類似の取り組み（高齢者の居場所つくり等）が他地域まで広がるまでは進んでいない。今後の開店日に見学会の開催や、市が実施する生活・介護支援サポーター養成講座の体験実習の受け入れを行い、他地区のモデルになるよう広報を行う予定。

3　目指す姿と現状の隔たりの要因

上記１と２の隔たりを生み出している主な原因はどのようなものと考えますか。

・サロン等、地域の他の行事でも役割を持っている方が中心のため、毎月の開催に対する負担感が強い。それゆえ受動的な立場での参加につながっている。
・来客者（親世代）とのコミュニケーションが不十分であり、「だがしや」をきっかけに地域住民同士の顔の見える関係ができるまでには至っていない。
・町内会役員会でも意義の説明をしたものの宣伝が不十分。

4　計画の概要と対象者（平成 30 年度）

上記 3 で挙げた要因を取り除くため，どのような人を対象に，どのような活動を実施しますか。150 字以内で簡潔にまとめてください（計画の詳細は下記７に記入してください）。

・駄菓子屋開催日の案内チラシのみでは無く、町内あるいは学区内に結果報告の印刷物配布等も行い、住民（特に高齢者）に楽しそうな場所と感じて戴くように宣伝する。
・世代間のコミュニケーションを深めるため、来客者に積極的な挨拶・声かけを行う。
・運営する高齢者の負担感を減らすため、楽しい企画の立案と新たな担い手の発掘を行う。

様式第２号

◆ アウトプット（直接の結果）とアウトカム（成果）について

アウトプットとは　事業の直接の結果であり，事業を通じて，どれだけの人に対し，どのようなサービスが提供されたかをいいます。

アウトカムとは　事業の成果であり，アウトプットが地域や社会，人にもたらす変化や効果をいいます。事業はこのアウトカムを生み出せるように計画します。

アウトプットとアウトカムの関係

事業を実施すると，まず，〇〇〇というアウトプットが生じ，次にその成果として，△△△というアウトカムが生じる関係にあります。

事業実施→アウトプット→アウトカム

◆ アウトプットとアウトカムの例

事業名	活動	アウトプット	アウトカム
学習支援事業	学習会の開催	月 4 回，各回 20 名参加	参加者の学習意欲の向上
就労支援事業	冊子作成・配布	1 千冊作成，800 人に配布	就労に必要な知識の習得
保護者支援事業	居場所の運営	週 2 回，各回 15 名参加	育児の負担感の緩和
移動支援事業	高齢者の送迎	週 2 回，各回 5 名利用	移動手段の選択肢の増加

5　アウトプット（直接の結果）

・毎月１回の駄菓子屋開店を行い、世代間交流のための多様な企画を行う。
・随時、見学や体験学習を受け入れ、本事業の魅力を PR する。

平成 30 年度の事業を通じて，どれだけの人に対し，どのようなサービスを提供しますか。アウトプットを測る指標と数値目標を記入してください。

指標	現状の数値	事業実施後の数値目標
・「だがしや」の開店回数 ・参加人数	本年度９回予定 100 以下人/回	12 回/年間 毎回 100 人以上

・毎回、参加者の数を数える

事業実施後の数値目標は，どのような方法で測りますか。

様式第２号

6　アウトカム（成果）

上記５のアウトプットが，平成 30 年度中に，地域や社会，人にもたらす変化や効果はどのようなものですか。

・幸町内の住民同士の交流が増え、駄菓子屋開催日以外にも、気にかけ合い、助け合える関係が育まれていく。
・市内他地区でも本事業を参考にした同様の取り組みが準備される

7　計画の詳細

(1) 具体的な内容

※内容，対象者，実施期間，実施場所，ねらいなど，できるだけ明確に記入してください。

・毎月１回「幸町だがしや」を開店する。
・開店の日までに、責任者で打合せを必ず実施する。
　✔任務分担の確認、駄菓子購入の売れ筋・仕入れ量確認
　✔宣伝方法を工夫し、年配者の参画を促すための方策を練る。その一つとして開店日のお知らせ以外にもチラシを配布できるようにする
・開店当日はこれまで通り、直前の意思統一の時間を持つ
・反省会については、当日の反省会を辞め、別日を設けることも考える。
　✔当日の反省会の負担感解消のためにアンケート方式とし、そこで得られた匿名の意見を基に、次回の計画を立てていく。
・高齢者が役割を持てるような企画を考案し、自分の能力が他者のニーズに直接生かされたという満足感を得られるようにする。
　✔地域内高齢者の得意なことを披露し、子ども達の感受性を刺激する。
　✔子どもや親世代とともに、編み物や折り紙など簡単な創作活動に取り組む。
　✔昔遊びや、子ども達の勉強など、高齢者が教える側として活躍する。
・市の協力のもと、市内の他地区の住民にも本事業を広報し、見学団体や体験実習を受け入れる。それにより、他地区への波及と、幸町住民のモチベーション向上につなげる。
　✔市から関係団体への広報・交渉を行い、随時見学会の開催を行う。
　✔市の実施する生活・介護支援サポーター養成講座の体験実習を受け入れる。（１１月～１２月予定）

様式第２号

(2) スケジュール（準備～実施～報告）

４月 ４～３月 随時	・２年度目の活動に入るにあたり、事前に継続する意義の共通認識のための会議開催 ４月より駄菓子屋開店、毎月の開店日は多様な企画で三世代交流 上記に加え見学会、体験学習受け入れ

(3) 実施体制

上記(1)の計画を実施するにあたり，実際に取り組む団体会員を記入してください。また，人件費を支払う予定の団体会員には，人件費欄に「有」を記入してください。

氏名	事業に有効な資格や経験	人件費
守安　繁	倉敷東学区社協副会長	無
中村　泰典	NPO 法人町家トラスト代表理事、東学区社協事務局長	無
辻　　正男	倉敷東学区社協会長	無
10 名を超える場合は，外○○名としてください⇒	外（　　）名	

8　受益者負担　※事業の財源確保のため，可能な限り参加費や受講料などを徴収してください。

（１）　徴収する（見込み：　駄菓子代金　年間売上額　　¥　156,000　　）

（２）　徴収しない（理由：　　）

様式第３号

収支予算書

1　収入の部

科目	内訳	金額(円)※2	積算根拠
受益者負担		156,000	売上￥13,000＊12 回
会費からの繰入		0	
その他		0	
市補助金		267,000	
収入合計		423,000	（支出合計と一致）

2　支出の部

科目	内訳	金額(円)※2	積算根拠
人件費（会員）※1		0	
交通費（会員）※1		0	
人件費（ｱﾙﾊﾞｲﾄ等）		152,000	¥790*4 時間*12*4 人
謝金（講師等）		0	
旅費交通費（講師等）	倉敷-中庄往復	19,000	¥190*2*12 月*4 人
消耗品費		178,000	年間駄菓子購入(仕入れ¥13000/回) コピー、お茶代、おもちゃ、事務用品
印刷製本費		40,000	催し物のチラシ、事業の報告
通信運搬費		0	
保険料		7,000	ボランティア行事保険　12ヵ月
使用料・賃借料		27,000	¥2000*7ヶ月＋¥2500*5ヶ月（冷暖房時）
外注費・委託費		0	
対象経費計		423,000	
食糧費		0	
人件費		0	
その他		0	
対象外経費計		0	
支出合計		423,000	（収入合計と一致）

※1：会員に支払う人件費と交通費の合算額は，対象経費計の１割を上限とする。

※2：金額欄は**切り上げて千円単位**で記入してください。